

復興道路等の沿線地域の変化を実績データを用いて分析 ～IC 周辺地域では人口の定住化と産業・観光の活性化が進展～

「復興道路等の整備による経済波及効果検討ワーキンググループ(座長:東北大学大学院 情報科学研究所 教授 河野 達仁)」※では、復興道路及び復興支援道路の役割と整備効果を定量的に評価するための手法について検討を進めてきました。

このたび、復興道路等の開通前後での人口定住効果・企業誘致効果・観光入込増加効果について、実績データを用いた統計分析を実施したので、その結果をお知らせします。

■約 2 万人の人口が増加、定住化が促進

○復興道路等の IC10 分圏内の人口は、IC30 分圏外と比べて**約2万人増加**(2010 年と 2015 年を比較)し、復興道路等沿線で人口定住が進む。

○復興道路等を利用した生活圏の拡大による、転出抑制に期待。

■約 1 万 2 千件の事業所が増加

○復興道路等の IC10 分圏内の事業所数は、IC30 分圏外と比べて**約1万2千件増加**(2009 年と 2016 年を比較、第二次産業と第三次産業の計)し、復興道路等の IC 周辺に企業集積が進む。

■年間約 2 1 0 万人の観光客数が増加

○復興道路等の IC10 分圏内の道の駅の入込客数は、IC30 分圏外と比べて**約 210万人増加**(2012 年と 2019 年を比較)し、復興道路等を利用した交流人口の拡大に期待。

※復興道路等の整備による経済波及効果検討ワーキンググループ

座長:東北大学大学院 教授 河野達仁

委員:宮古市副市長、陸前高田市副市長、気仙沼市副市長、相馬市建設部長

オブザーバー:(一財)日本みち研究所専務理事、(一財)計量計画研究所研究本部長、

国土交通省東北地方整備局 道路計画第二課長、三陸国道事務所長

【問い合わせ先】

復興道路等の整備による経済波及効果検討ワーキンググループ

事務局:(一財)日本みち研究所、(一財)計量計画研究所

連絡先:(一財)計量計画研究所 交通・社会経済部門 樋野(ひの) 03-3268-9740

(一財)日本みち研究所 みち空間グループ 青山(あおやま)03-5621-3115

復興道路等の経済波及効果

世代別の人口定住効果の推計

ストック効果 1

人口定住効果

分析内容

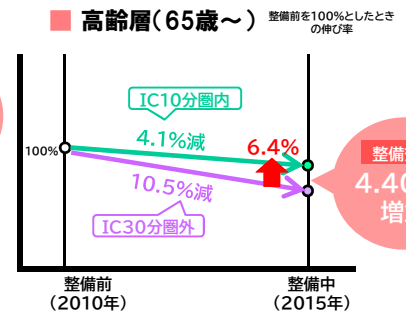
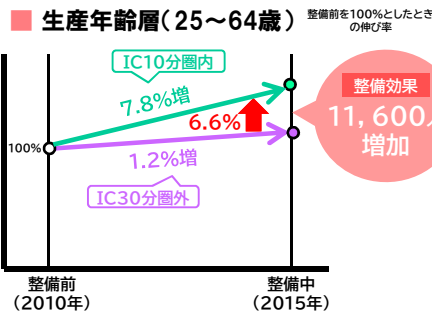
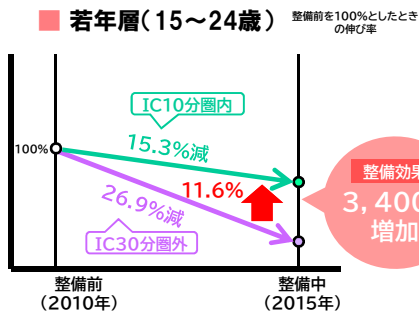
復興道路等のIC10分圏内の沿線人口について、沿線3県内（岩手県、宮城県、福島県）のIC30分圏外の地域と比較した場合の、復興道路等の整備前後の増加状況を分析した。

※人口は自然増減を除く。

※出典：世代別人口は平成22年、平成27年 国勢調査 地域メッシュ統計
自然増減の死亡率は令和2年人口動態統計の平成27年値

IC10分圏内 復興道路等から近い地域

IC30分圏外 復興道路等から遠い地域



IC10分圏内の定住人口は

全世代合計で 約2万人増加

産業別の企業誘致効果の推計

ストック効果 2

企業誘致効果

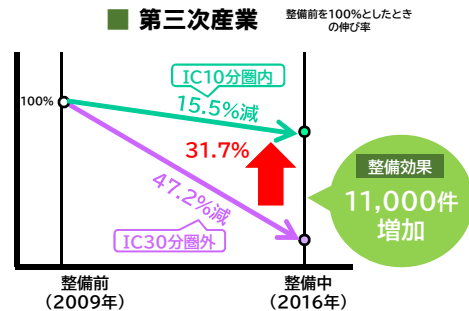
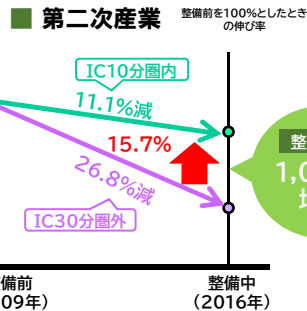
分析内容

復興道路等のIC10分圏内の事業所数について、沿線3県内（岩手県、宮城県、福島県）のIC30分圏外の地域と比較した場合の、復興道路等の整備前後の増加状況を分析した。

※出典：平成21年、平成28年 経済センサス 地域メッシュ統計

IC10分圏内 復興道路等から近い地域

IC30分圏外 復興道路等から遠い地域



IC10分圏内の事業所数は

第二次産業+第三次産業で 約1万2千件増加

道の駅の観光入込増加効果の推計

ストック効果 3

観光入込増加効果

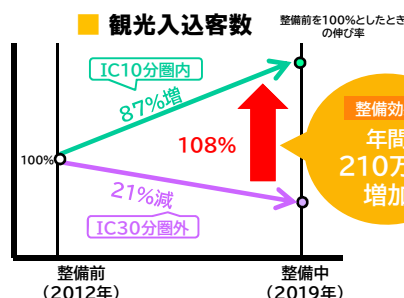
分析内容

復興道路等のIC10分圏内の道の駅の入込数について、沿線3県内（岩手県、宮城県、福島県）のIC30分圏外の道の駅と比較した場合の、復興道路等の整備前後の増加状況を分析した。

※出典：道の駅レジカウントデータ。岩手県は地点別観光入込客数を公表しておらず、レジカウントデータを観光入込客数の代理指標とした。

IC10分圏内 復興道路等から近い地域

IC30分圏外 復興道路等から遠い地域



IC10分圏内の観光入込数は

年間 約210万人増加